

[報 告]

第 15 回高性能シミュレーションに関するワークショップ (WSSP) 報告

東北大学サイバーサイエンスセンター 小林 広明

東北大学サイバーサイエンスセンターとドイツのシュトゥットガルト大学高性能計算センター (HLRS) は、2012 年 3 月 22 日 (木)～3 月 23 日 (金) に第 15 回 Workshop on Sustained Simulation Performance (WSSP) を開催しました。本ワークショップは、サイバーサイエンスセンターと HLRS との間の高性能計算に関する組織的連携協定に基づき両センターのスーパーコンピュータシステムの利用者、並びに国際的に活躍する計算科学者・計算機科学者を招いて、毎年、春と秋にシュトゥットガルト大学と東北大学で交互に開催しているものです。

今回のワークショップでは、昨年、東日本大震災を受け、被災地でもある仙台において、特に「震災からの日本の復興・再生を目指して - 安全・安心、ものづくりに資するスーパーコンピューティング技術 -」をテーマとして、スーパーコンピュータを用いた 3.11 東日本大震災のシミュレーション解析、福島原発事故の放射線汚染マップ可視化技術、我が国の地震津波観測網構築などの安全・安心に関するスパコン活用成果や、国産近距離ジェット機 MRJ の設計、ナノデバイス設計、海水の淡水化システムの開発など先進ものづくりを加速するスーパーコンピューティング技術の講演が行われました。その他、エクサスケール時代のシステムアーキテクチャに関する講演や、ドイツ HLRS および GRS の研究グループから、EU のスパコン戦略や最先端のシミュレーション技術とその産業応用に関する発表も行われました。

2 日間のワークショップでは、延べ約 150 名の参加者を得て、活発な議論が交わされました。第 16 回ワークショップは、2012 年秋にシュトゥットガルト大学で行われる予定です。また、2012 年度に開催されたワークショップの論文集が後日 Springer 社から出版されます。講演予稿集および論文集にご興味がありましたら、センターまでお問い合わせください。

